

日 薬 発 第 6 7 号
平成 1 6 年 5 月 2 4 日

都 道 府 県 薬 剤 師 会 会 長 殿

日 本 薬 剤 師 会
会 長 中 西 敏 夫

**平成 1 5 年度「薬と健康の週間」における全国統一事業結果の報告
並びに一般用医薬品の提供に係る服薬指導の充実・徹底等について**

平素より、本会会務に格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、貴会並びに貴会傘下の会員薬局・一般販売業の先生方のご協力を賜り、昨年 1 0 月 1 7 日～ 2 3 日に実施した「薬と健康の週間」における全国統一事業の結果がこの程まとめられましたので、ご報告申し上げます。

平成 1 5 年度の「薬と健康の週間」では、全国統一事業として 薬局・一般販売業における事業（一般用医薬品提供時の“薬剤師の相談業務”に関するデータ及び相談事例の収集）と、薬剤師会における事業（各種イベント会場等での「お薬相談会」の実施等）を行いました。の事業には7,297軒の薬局・薬店に参加いただき、その結果約 4 万件の相談事例が収集されました。また、の事業については、225カ所の薬剤師会で延べ313回のお薬相談会が開催されました。本事業へのご協力に対しまして、厚く御礼申し上げます。

調査結果の概要は別添 1 のとおりですが、集計・分析結果からは、会員薬局・薬店の薬剤師が一般用医薬品の提供に際して必要な情報提供や服薬指導を行った上で、患者からの質問や相談に応じている実態が明らかになったものと考えております。また、患者等からの一般用医薬品による副作用の訴えに対しても、薬剤師がその症状により使用の中止を指示したり、医療機関を紹介するなどの適切な対応をとっていることも明確にできたものと思われます。さらに、今回の調査結果に鑑みますと、「指定医薬品」及び「過去に副作用が報告されている医薬品」に関しては、その安全性や効果的な使用について、薬剤師が適切な指導・助言を行うことが重要であり、薬剤師による服薬指導の充実・徹底が必要であることが明確になりました。国民の皆さんに一般用医薬品をより一層安心して使用していただけますよう、これらの医薬品について下記事項の徹底を改めてお願い申し上げます。

なお、今回の調査結果につきましては、日薬誌 7 月号及び本会ホームページで紹介するとともに、医薬品に関する規制改革に反対する上での資料として活用することとしております。

本会では、今後とも必要な施策を推進していく所存ですので、貴会におかれましても、会員薬局・一般販売業における一般用医薬品販売時の服薬指導の充実・徹底につき、一層のご尽力を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

記

1．一般用医薬品について

言うまでもなく、副作用はすべての医薬品について発生するものです。昨年の「薬と健康の週間」における全国統一事業においても多くの相談事例が報告されていることから、一般用医薬品の適正使用の確保のため、改めて貴会会員に以下の事項について徹底していただきたく、ご指導賜りますよう、お願い申し上げます。

一般用医薬品の販売に当たっては、相談者の副作用歴等を十分に確認すること。

医薬品を服用中に何らかの異常を感じた場合には、すぐに使用を中止し、薬剤師に相談するよう指導するとともに、注意すべき副作用の初期症状や使用上の注意事項等を販売時に説明すること。

副作用の訴えがあった場合には、必要に応じて医療機関への受診を勧めることを含め、迅速な対応をとること。また、重篤な副作用については厚生労働省への副作用報告を行うこと。

2．指定医薬品 及び スイッチOTC薬 について

全国統一事業においては、指定医薬品であるH₂ブロッカーを含有する一般用医薬品の販売に当たっての相談事例が120件も報告されました（別添2）。

言うまでもなく、H₂ブロッカーを含む指定医薬品は、薬事・食品衛生審議会・医薬品等安全対策部会が「薬剤師による取り扱いを要する」として、薬剤師による適切な服薬説明や情報提供が求められるものです。

従って、指定医薬品及びスイッチOTC薬については、上記1のほか、以下の事項について貴会会員に徹底していただきたく、ご指導賜りますよう、お願い申し上げます。

指定医薬品の販売に際しては、十分な服薬指導や、使用上の注意等に関する説明を薬剤師が対面で行うことが求められている。したがって、指定医薬品については、購入者が直接手に取ることができない場所に陳列するなど、薬剤師の関与が必須となるような販売体制をとり、当該医薬品の販売に際しての一層の安全対策を講じること。

指定医薬品及びスイッチOTC薬については、同含有成分・同含有量の医療用医薬品が汎用されている点などを考慮し、当該医薬品単独の情報に限らず、他の薬剤との併用・相互作用、医療機関への受診の有無、相談者の症状や体調、アレルギー歴等、様々な観点からの確認・相談応需を薬剤師の側から積極的に行い、消費者が安心して使用できるように配慮すること。

（注）スイッチOTC薬については、厚生労働省より別添3の資料が公表されている。

以 上

平成 15 年度「薬と健康の週間」 における全国統一事業の結果（概要）について

平成 16 年 5 月
(社)日本薬剤師会

平成 15 年度の「薬と健康の週間」(平成 15 年 10 月 17 ~ 23 日)では、全国統一事業として、

- ・ 薬局・薬店における事業（一般薬販売時の“薬剤師の相談業務”に関するデータ及び相談事例の収集）
 - ・ 薬剤師会における事業（各種イベント会場等での「お薬相談」の実施）
- を行いました。

この程、その結果（概要）がまとまりましたので、ご報告いたします。

*

*

・ 薬局・薬店における事業（一般薬販売時の“薬剤師の相談業務”に関するデータ及び相談事例の収集）

平成 15 年度の全国統一事業には、7,297 軒の薬局・薬店に参加いただき、結果報告を提出いただきました。それによると、全国統一事業に参加した約 7 千軒の薬局・薬店において、1 日当たり約 1 3 万 5 千人が一般薬を購入し、このうち約 4 万人が何らかの相談・質問を行ったことが明らかになりました。

これを全国の薬局・薬店数 61,046 軒（平成 14 年 12 月現在）に当てはめると、全国の薬局・薬店では 1 日平均 113 万人が一般薬を購入し、そのうち 33 万人が何らかの相談・質問を行っていることとなります。この数字は、一般薬の販売に際して、薬局・薬店の薬剤師が必要な情報提供や服薬指導を行った上で、患者からの質問や相談に答え、医薬品の適正使用に貢献していることを実証するものであると考えられます。（表 1）

〔表 1〕 薬局・薬店における一般薬に関する相談・質問の状況（全国統一事業の概要）

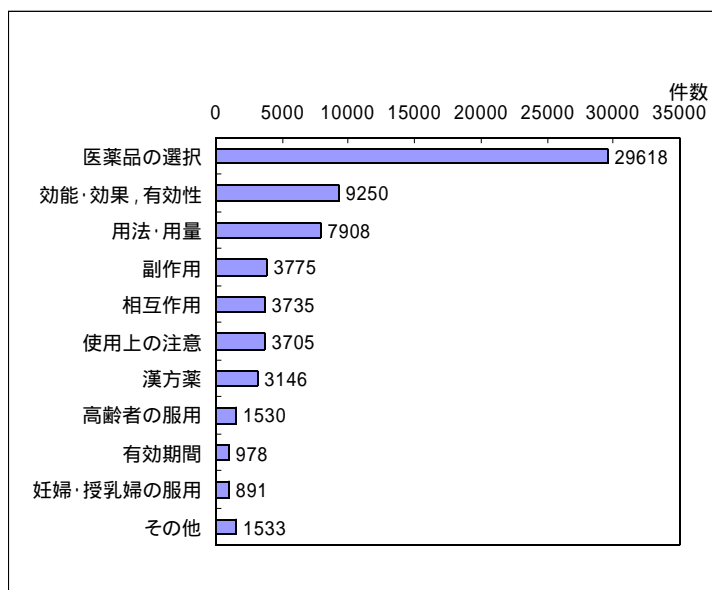
参加薬局・薬店数	7,297 軒
1 日当たりの一般薬購入者数	135,555 人
一般薬購入者数のうちの相談・質問者数	39,940 人

注) 各薬局・薬店には「薬と健康の週間」中の任意の 1 日についての報告を求めているため、調査結果は 1 日当たり平均のもの。

一般薬についての相談事例を内容別にみると、「医薬品の選択に関するもの」が 29,618 件と最も多く、一般薬について相談・質問をした 39,940 人の 74.2% を占めています。次いで、「効能・効果、有効性に関するもの」9,250 件（同 23.2%）、「用法・用量に関するもの」7,908 件（同 19.8%）、「副作用に関するもの」3,775 件（同 9.5%）、「相互作用に関するもの」3,735 件（9.4%）、「使用上の注意に関するもの」3,705 件（同 9.3%）、「漢方薬に関するもの」3,146 件（同 7.9%）などが多くなっています。（表 2, 図 1）

[表2][図1] 一般用医薬品に関する相談・質問の内容別内訳(複数回答)

医薬品の選択	29,618
効能・効果,有効性	9,250
用法・用量	7,908
副作用	3,775
相互作用	3,735
使用上の注意	3,705
漢方薬	3,146
高齢者の服用	1,530
有効期間	978
妊婦・授乳婦の服用	891
その他	1,533
延べ件数 計	66,069



最も多かった「医薬品の選択に関するもの」では、薬剤師に症状を説明し、最も適当な一般薬を選んでもらうための相談・質問が多く見られましたが、前立腺肥大や緑内障等の疾患を持つ患者が、持病に影響を与えない医薬品を選択してもらうケース、過去に使用した医療用医薬品と同じ成分のスイッチOTC薬を尋ねるケース、自分の症状に合った単味成分の一般薬や眠気の少ない風邪薬を求めるケースなども多数報告されました。

また、「副作用に関するもの」では、長期間使用している場合の副作用を心配する事例が多数報告され、こうした不安の訴えに対しては薬剤師が適切に回答し、一般薬を継続して販売するのではなく、必要に応じて医師への受診を勧めるケースが多く見られました。

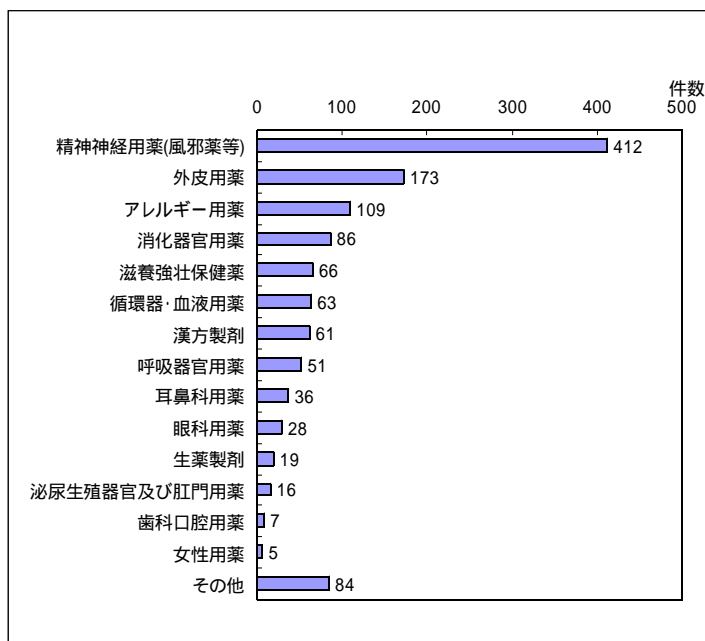
さらに、「相互作用に関するもの」では、高血圧、糖尿病、高脂血症等の生活習慣病で医療用医薬品を常用している中高年・高齢者の患者さんが、これら医薬品を服用中に風邪や頭痛等で一般薬を服用してよいかを尋ねる事例が多数報告されました。また、医薬品ではありませんが、各種の栄養補助食品や健康食品(コエンザイム、コンドロイチン、クロレラ等)を常用しており、これらと医薬品を併用して良いかと質問する事例も多く見られました。

「その他」では、一般薬で対応すべきか、医療機関を受診して治療すべきかを薬剤師に尋ねるものや、本人または家族の喫煙に関して、禁煙補助剤の使い方や効能・効果、費用等を質問する例などが複数報告されました。

次に、副作用の訴えのあった一般薬について「薬効分類別」にみると、最も多かったのは精神神経用薬(風邪薬等)の412件でした。以下、外用薬173件、アレルギー用薬109件、消化器官用薬86件などが多くなっています。ただし、これらの件数は副作用の発生頻度を表すものではありません。(表3, 図2)

[表3][図2] 副作用の訴えのあった一般薬の「薬効分類別」件数

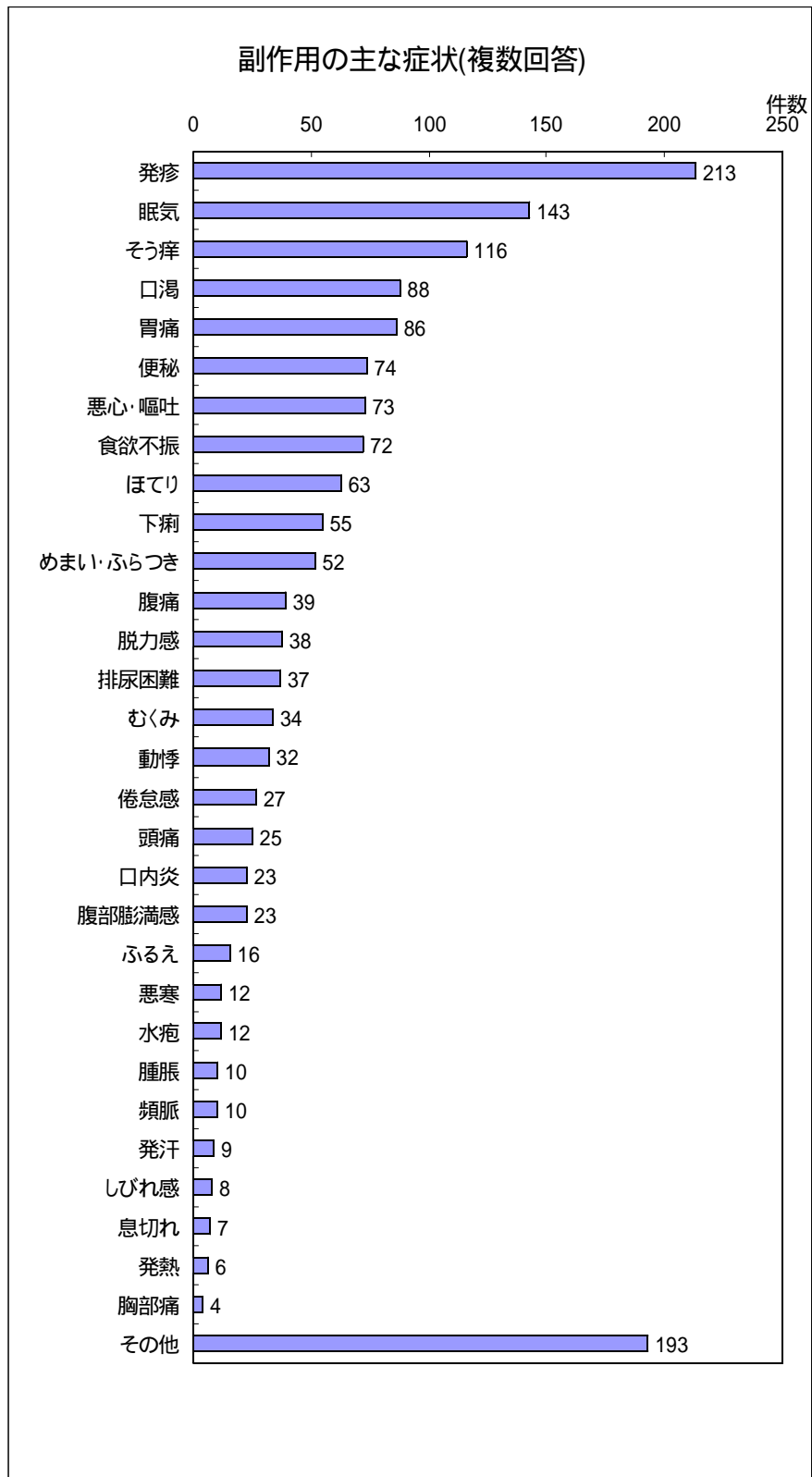
精神神経用薬 (風邪薬, 解熱鎮痛薬等)	412
外皮用薬	173
アレルギー用薬	109
消化器官用薬	86
滋養強壮保健薬	66
循環器・血液用薬	63
漢方製剤	61
呼吸器官用薬	51
耳鼻科用薬	36
眼科用薬	28
生薬製剤	19
泌尿生殖器官及び肛門用薬	16
歯科口腔用薬	7
女性用薬	5
その他	84
延べ件数 計	1,216



一方、患者等から訴えのあった「副作用の主な症状」(複数回答)を見ると、「発疹」が213件(延べ件数、以下同じ)と最も多く、以下、「眠気」143件、「そう痒」116件、「口渇」88件、「胃痛」86件、「便秘」74件、「悪心・嘔吐」73件、「食欲不振」72件、「ほてり」63件、「下痢」55件、「めまい・ふらつき」52件などの順となっています。(表4, 図3)

[表4][図3] 副作用の主な症状(複数回答)

発疹	213	めまい・ふらつき	52	ふるえ	16
眠気	143	腹痛	39	悪寒	12
そう痒	116	脱力感	38	水疱	12
口渇	88	排尿困難	37	腫脹	10
胃痛	86	むくみ	34	頻脈	10
便秘	74	動悸	32	発汗	9
悪心・嘔吐	73	倦怠感	27	しびれ感	8
食欲不振	72	頭痛	25	息切れ	7
ほてり	63	口内炎	23	発熱	6
下痢	55	腹部膨満感	23	胸部痛	4
その他	193	延べ件数 計	1,600		



上記の「副作用の訴えのあった一般薬の『薬効分類別』件数」と「副作用の主な症状の件数」の相関、すなわち、どのような一般薬でどのような副作用の発現が疑われたのかをみると、多い組み合わせは以下のとおりでした。(表5)

【表5】 副作用の訴えのあった一般薬の「薬効分類」と「主な症状」

精神神経用薬（風邪薬，解熱鎮痛薬等） (412)	眠気(72)，発疹(68)，胃痛(59)，悪心・嘔吐(38)， 口渇(33)，食欲不振(32)，めまい・ふらつき(31)， 便秘(27)，そう痒(26)，排尿困難(26)
外皮用薬(173)	発疹(74)，そう痒(58)，発赤(29)
アレルギー用薬(109)	眠気(49)，口渇(23)，発疹(13)
消化器官用薬(86)	下痢(20)，腹痛(15)，口渇(12)，便秘(11)，発疹(9)
滋養強壮保健薬(66)	発疹(13)，食欲不振(8)
循環器・血液用薬（強心薬等） (63)	発疹(10)，悪心・嘔吐(7)，ほてり(6)，下痢(6)， めまい・ふらつき(6)
漢方製剤(61)	浮腫(9)，発疹(7)，食欲不振(7)，胃痛(7)， 悪心・嘔吐(6)，下痢(6)
呼吸器官用薬（鎮咳去たん薬等）(51)	便秘(20)，発疹(6)，食欲不振(6)，悪心・嘔吐(6)
耳鼻科用薬(36)	眠気(15)，口渇(8)

注) 1.()内の数字は報告件数

2. 副作用の症状は訴えの件数の多かった主なもののみ掲載

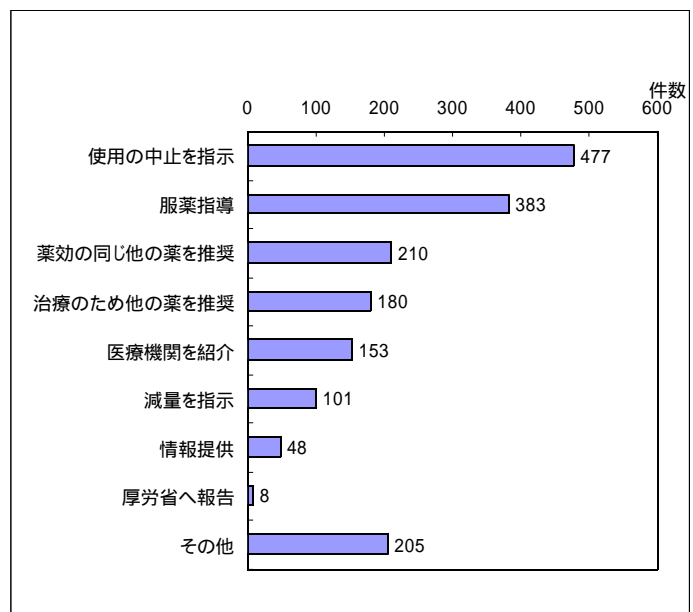
なお、これら副作用の発現に対しては、薬局・薬店の薬剤師が適切な措置をとり、対応していることが明らかになっています。(表6，図4)

具体的に「訴えのあった副作用の症状」と「薬剤師のとった措置」との相関をみると、皮膚に症状(発疹、そう痒、発赤など)が発生した場合に、薬剤師が「使用の中止を指示」したり、「医療機関を紹介」する対応をとっているケースが多数見られました。これは、スティーブンス・ジョンソン症候群など重篤な副作用の初期症状を疑い、薬局・薬店の薬剤師が適切な対応をとっている例であると言えます。また、「胃痛」、「悪心・嘔吐」、「食欲不振」等の消化器系の症状の訴えがあった場合にも同様の対応がとられていることが、調査結果から明らかになっています。

その他、患者の訴えの内容に応じて、それぞれ薬剤師による適切な対応がとられています。

【表6】[図4] 薬剤師のとった措置(複数回答)

使用の中止を指示	477
服薬指導	383
薬効の同じ他の薬を推奨	210
治療のため他の薬を推奨	180
医療機関を紹介	153
減量を指示	101
情報提供	48
厚労省へ報告	8
その他	205



・薬剤師会における事業（「お薬相談」の実施）

薬剤師会における「お薬相談」については、「薬と健康の週間」中に45都道府県の薬剤師会（支部薬剤師会を含む）において延べ313回行われました。内訳は、都道府県薬剤師会主催のものが42回、支部薬剤師会主催のものが271回で、お薬相談会を実施した支部薬剤師会は202支部に達しました。（表7）

313回のお薬相談会における延べ相談件数は5,137件でした。

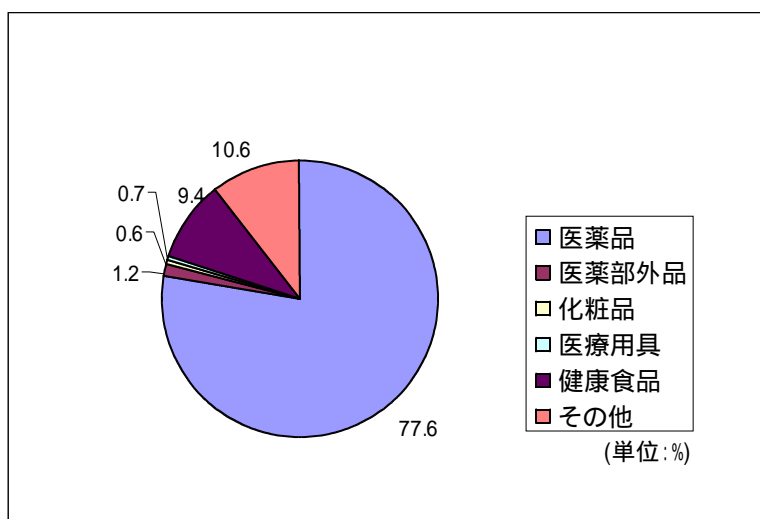
【表7】 お薬相談事業の実施件数

	都道府県薬剤師会	支部薬剤師会	計
実施した薬剤師会	23カ所	202カ所	225カ所
延べ実施回数	42回	271回	313回

受け付けた5,137件の相談件数を、質問・相談の内容別にみると、「医薬品に関するもの」が4,023件（全相談件数の77.6%）と最も多く、次いで「その他」が547件（同10.6%）、「健康食品に関するもの」が485件（同9.4%）などが多く、医薬部外品、医療用具、化粧品等に関する相談は比較的少数でした。（表8、図5）

【表8】【図5】相談・質問の内容

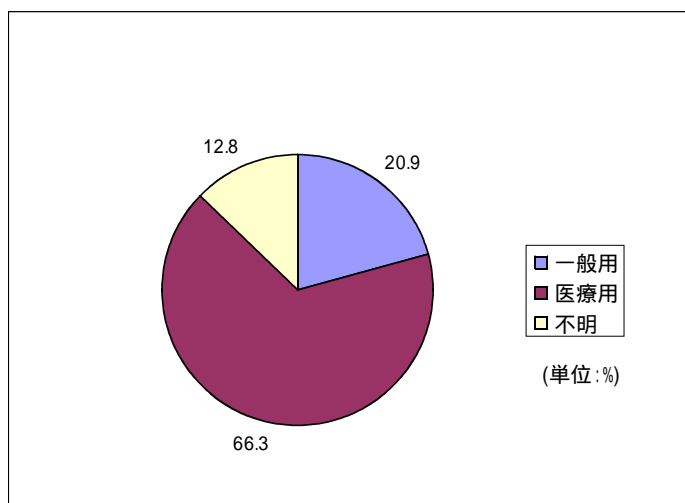
医薬品	4,023
医薬部外品	62
化粧品	30
医療用具	35
健康食品	485
その他	547
計	5,182



さらに「医薬品」に関するものの内訳をみると、「医療用医薬品」が2,667件（医薬品に関する相談件数の66.3%）、「一般用医薬品」が841件（同20.9%）で、「不明」は515件（12.8%）でした。（表9、図6）

[表9][図6] 医薬品についての相談の内訳

一般用医薬品	841
医療用医薬品	2,667
不明	515
計	4,023



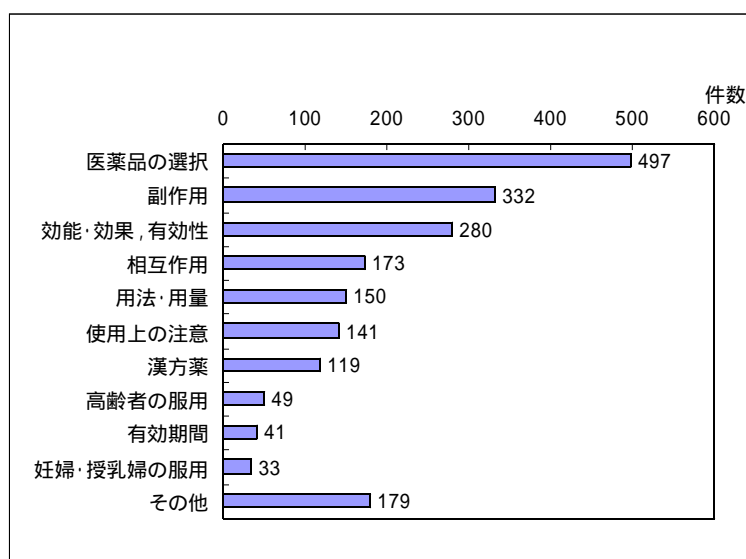
今回の事業では、以下、「一般用医薬品」についての相談・質問のみに限って、さらに詳細を調査しました。

「一般用医薬品に関する相談・質問」を、相談内容別にみると、「医薬品の選択に関するもの」が497件（一般用医薬品についての総相談件数841件の59.1%）と最も多く、以下、「副作用に関するもの」332件（同39.5%）、「効能・効果、有効性に関するもの」280件（同33.3%）、「相互作用に関するもの」173件（20.6%）、「用法・用量に関するもの」150件（同17.8%）、「使用上の注意に関するもの」141件（16.8%）、「漢方薬に関するもの」119件（同14.1%）などが上位を占めました。（表10、図7）

薬局・薬店での相談内容に比べて、「医薬品の選択に関するもの」が少なく、「副作用に関するもの」や「相互作用に関するもの」が比較的多くなっていることが、特徴として挙げられます。

[表10][図7] 一般用医薬品に関する相談・質問の内容別内訳(複数回答)

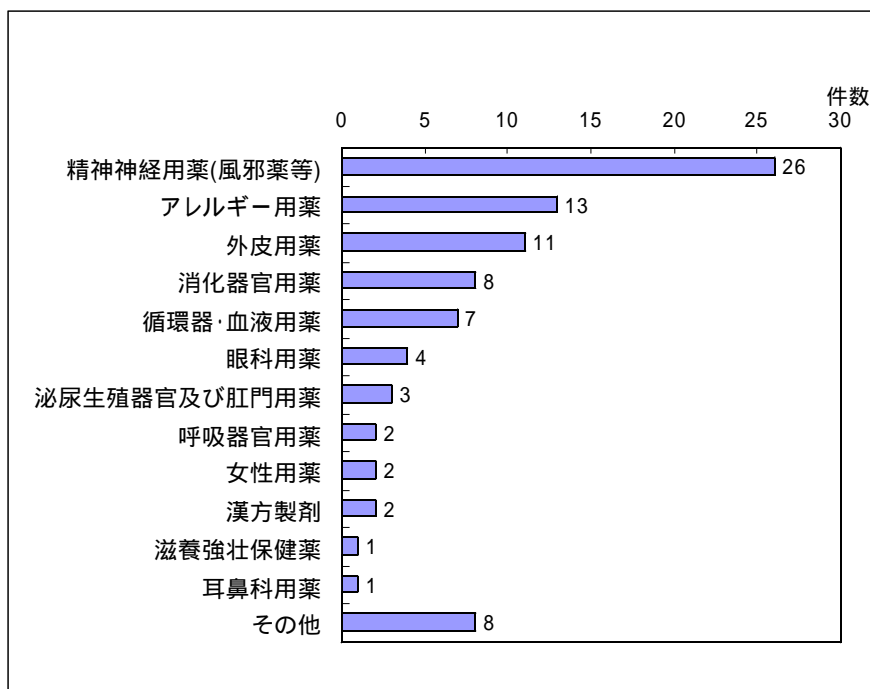
医薬品の選択	497
副作用	332
効能・効果, 有効性	280
相互作用	173
用法・用量	150
使用上の注意	141
漢方薬	119
高齢者の服用	49
有効期間	41
妊婦・授乳婦の服用	33
その他	179
延べ件数 計	1,994



次に、副作用の訴えのあった一般薬を「薬効分類別」にみると、最も多かったのは精神神経用薬（風邪薬，解熱鎮痛薬等）の26件でした。以下、アレルギー用薬13件、外皮用薬11件、消化器官用薬8件などが多くなっており、これらは薬局・薬店ででの相談と同様の傾向を示しています。ただし、これらの件数は副作用の発生頻度を表すものではありません。（表11，図8）

【表11】【図8】副作用の訴えのあった一般薬の「薬効分類別」件数

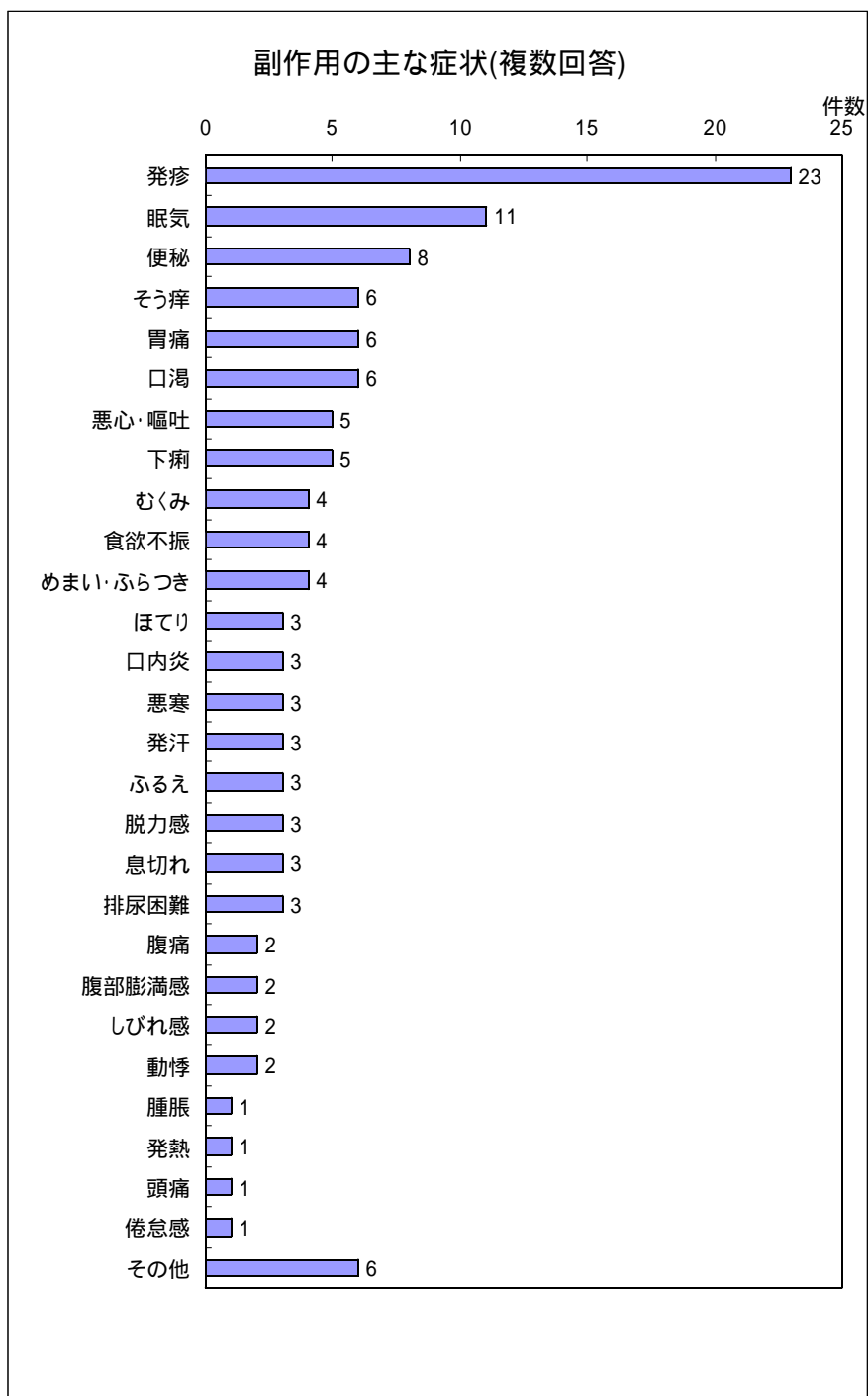
精神神経用薬(風邪薬，解熱鎮痛薬等)	26	泌尿生殖器官及び肛門用薬	3
アレルギー用薬	13	呼吸器官用薬	2
外皮用薬	11	女性用薬	2
消化器官用薬	8	漢方製剤	2
循環器・血液用薬	7	滋養強壮保健薬	1
眼科用薬	4	耳鼻科用薬	1
その他	8	延べ件数 計	88



一方、相談者から訴えのあった「副作用の主な症状」（複数回答）をみると、「発疹」が23件（延べ件数、以下同じ）と最も多く、以下「眠気」11件、「便秘」8件などが多くなっています。（表12，図9）

【表12】【図9】副作用の主な症状(複数回答)

発疹	23	食欲不振	4	排尿困難	3
眠気	11	めまい・ふらつき	4	腹痛	2
便秘	8	ほてり	3	腹部膨満感	2
そう痒	6	口内炎	3	しびれ感	2
胃痛	6	悪寒	3	動悸	2
口渇	6	発汗	3	腫脹	1
悪心・嘔吐	5	ふるえ	3	発熱	1
下痢	5	脱力感	3	頭痛	1
むくみ	4	息切れ	3	倦怠感	1
その他	6	延べ件数 計	124		



なお、上記の「副作用の訴えのあった一般薬の『薬効分類別』件数」と「副作用の主な症状の件数」の相関については、件数が少ないため詳細な考察できませんが、概ね薬局・薬店での相談と同様の傾向が見られました。

まとめ

今回の全国統一事業では、薬局・薬店の薬剤師が、一般用医薬品の提供に際して必要な情報提供や服薬指導を行った上で、患者からの質問や相談に答えている実態を数字として明らかにできたと考えます。

また、患者からの一般薬による副作用の訴えに対して、薬剤師がその症状等により、使用の中止を指示したり、医療機関を紹介するなどの対応をとっていることも、明確にすることができたものと思われます。

本会では、今後とも一般薬販売時の情報提供や相談業務のより一層の充実に向けて、必要な施策を推進していく所存です。

平成15年度「薬と健康の週間」中の任意の1日に薬局で受けた
H2ブロッカ - に関する質問・相談

《医薬品の選択について》

年齢	性別	来局者の相談・質問内容	薬局・薬剤師の対応・応答
40～50	男性	胃が痛い。ガスタ - (10)のように胃酸を抑えるものがよいか、消化酵素が入っているものや胃粘膜保護剤のようなもののどちらがよいか。	症状を詳しく聞き、ガスタ - (10)を販売。
40～50	男性	胃が痛い。背中も痛い。空腹時は特に痛い。H2ブロッカ - と鎮痙剤がほしい。	H2ブロッカ - を販売せず、消化器科の受診を奨めた。
20～30	男性	胃が痛いと訴え。	ストレスのたまる職業(運転手)である旨を確認し、センロック錠・末、ガスタ - (10)錠・末について説明の上、いずれかをお奨めしたところ、ガスタ - (10)末は、以前にも服用歴があるとのことで購入された。他剤の服用はない事も確認。
40～50	女性	胃が痛む。むかつきあり。ガスタ - (10)でよいか。	
20～30	男性	胃が痛むと来局。話を聞くと胃潰瘍の可能性もあり。	病院にかかるよう奨めたが、仕事の関係で今日は病院に行けないため、ガスタ - (10)6錠を購入。注意事項を説明し、医療機関にかかるよう再度話す。
40～50	男性	胃潰瘍の手術をしたことがある。この頃胃が痛む。ガスタ - (10)がほしい。	今日は、一応飲んで痛みを抑えても、必ずまた医療機関で検査を受けるように奨める。
40～50	男性	胃潰瘍歴がある。最近では胃痛とか胸やけはないのだが、食欲がなく胃がもたれる。何か適した胃腸薬はないか。ガスタ - (10)でよいか。	
20～30	男性	胃が重い感じがして調子が悪い。胸やけもする。何か胃薬を飲みたいが、何がいいだろう。飲酒がすぎたかもしれない。H2ブロッカ - でよいか。	
60～70	女性	胃が調子悪く、胸やけの症状もある。どの医薬品がよいか。H2ブロッカ - がよいか。	症状と胃の調子が悪くなった時期等を聞き、ガスタ - (10)よりも制酸剤を奨める。
40～50	男性	胃症状。空腹時特に痛みあり。胃潰瘍過去に経験あり。どの胃薬がよいか。H2ブロッカ - がよい	早めの病院への受診を奨める。
40～50	男性	以前、胃潰瘍で通院したことがあるが、また同じ症状になったので、市販の薬を飲もうと思うのだが、どれがよいか。H2ブロッカ - がよいか。	
40～50	男性	胃痛・胸やけ・もたれ・むかつきの症状があるので、これに適した薬がほしい。	ガスタ - (10)6錠を販売。1回1錠服用して、1日2回服用を指示。
60～70	女性	胃痛・胸やけが最近続くようになった。数年前に、消化性潰瘍を患ったことがある。手持ちのガスタ - (10)を飲むべきか。どうしたらよいか。	話を聞くと、症状からして胃酸過多による胃炎・ストレス性潰瘍を起こしている可能性もあるので、消化器内科へ行き胃カメラを撮り診断してもらうよう促す。それまでは、手持ちのガスタ - を服用するように話す。
40～50	男性	胃痛だが、何かよい薬はないか。	話の内容から胃が荒れているおそれあり。H2ブロッカ - と胃粘膜保護剤を奨め、特にH2ブロッカ - の服用方法について守るよう指導。4日程して改善なければ、胃腸科を受診するよう指導。
40～50	男性	胃痛を訴える。	話の内容から胃が荒れている恐れあり。ガスタ - (10)とセルベ - ルを奨める。特にガスタ - (10)の服用方法について説明し、用法・用量を守るよう指導。4日程して改善がなければ、胃腸科を受診するよう説明。
40～50	女性	胃の痛みが取れない。ガスタ - (10)はどうか。	他剤服用がないことを確認し、販売。痛みが続くようなら、必ず医療機関を受診し、検査を受けるよう奨める。
40～50	不明	胃の具合が悪い。痛みもある。以前、十二指腸を患ったこともある。H2ブロッカ - を服用してよいか。	ガスタ - (10)を購入。その後、症状は良好の様子。

《医薬品の選択について》

年齢	性別	来局者の相談・質問内容	薬局・薬剤師の対応・応答
不明	女性	今までガスタ - (10)を購入していたが、値段も高いし、改善も今ひとつだった。食べ過ぎに飲む薬で、他に適当な胃薬はないか。	
40～50	女性	医療機関からタケプロンをもらっていたが、終わったら薬局の市販薬で胃薬を買いたい。ガスタ - (10)でよいか。	
40～50	女性	医療機関でガスタ - を以前もらっていたが、最近また胃が痛いことがある。市販薬のガスタ - (10)を飲めばいいのか。	以前に医療機関を受診した時は、胃炎だったとのことなので、今日はガスタ - (10)を購入し、数日飲んで様子を見ることにした。
40～50	男性	医療用医薬品のガスタ - を服用中。医療機関が休みのため、市販薬のガスタ - (10)を購入したい。	継続して服用するための一時的な繋ぎとして市販薬を販売。
40～50	女性	過去に医師からガスタ - (20)を処方され服用していたが、また最近症状がある。市販薬のキャベジン服用したところ、効いた。キャベジンとガスタ - (10)のどちらを服用した方がよいか。	キャベジンを販売するとともに、H2ブロッカ - についても説明し、症状が続くようなら、医療機関を受診するよう指導。
40～50	男性	ガスタ - (10)とアパロンZの違いは。使用方法・服用回数・内容成分の違いを教えてください。	
40～50	男性	ガスタ - (10)を指名で購入希望。知人に奨められたとのこと。老人介護のストレスが胃が痛む。	症状等を詳しく聞いた上で、ガスタ - (10)を販売。数回服用してみて、症状が改善しないまたは胃痛が続くようなら、医療機関を受診するよう奨める。近医を3軒紹介。
20～30	女性	ガスタ - (10)を丸一日服用したが、全然痛みが取れない。むしろ、ひどくなった。医者に診てもらいたいが、入院中の子供さんの看病でその暇がない。他によい薬はないか。	痛みは胃酸過多によるものではないかと推測。あと考えられるのは、軽い胃けいれん。ロ - トエキスの入った胃薬を奨め購入。夕方、楽になりましたとお礼を言ってこられる。
60～70	女性	患者本人。ガスタ - (10)を選ぶ。	詳しく話を聞いてみると、いつもはキャベジンを飲んでいて、よく効くとのこと。ガスタ - (10)ではなく、新中外胃腸薬をお奨めし、購入。
40～50	男性	空腹時に胃がムカムカし、少し痛いような感じがする。H2ブロッカ - を服用するとよくなるが、飲むのを止めた時、より胃酸が出るような気がする。	症状を詳しく聞き、H2ブロッカ - ではなく、中外胃腸薬を販売。また、胃のレントゲン撮るよう医療機関の受診を奨める。
40～50	男性	空腹時に胃痛あり。医者に行く時間がないので何か薬を下さい。H2ブロッカ - がいいですか。	
20～30	男性	空腹時に胃痛がある。	症状をよく聞き、ガスタ - (10)を奨め、数日間服用しても症状が改善しなければ、医療機関を受診するよう説明。
40～50	男性	空腹時に胸やけがして、胃に鈍痛あり。	よく症状を聞いた上で、H2ブロッカ - を販売。本剤を服用しても痛みが出たり、症状が改善しないようなら、医療機関を受診するよう説明する。
60～70	女性	最近、胃の調子が悪く、むかつくので大正漢方胃腸薬を服用したが、あまりよくなりません。ガスタ - (10)でよいか。	症状を聞き、医療機関への受診を奨める。患者は医療機関を受診。ガスタ - Dが処方され、少し回復。検査を受けたら、ポリ - プあり。
40～50	女性	センロック顆粒(24包)8日分を販売したが、4～5日すると来局。	一人で飲んでいるのかを確かめたところ、1日5回も胃が痛む度に飲むとのこと。神経性胃炎であるという。来局者は極端にやせており、少女時代から体重は変わらず、胃潰瘍と思うとのこと。ガスタ - (10)を販売せずに、医療機関への受診を強く奨める。
60～70	男性	調子が悪い時はいつもガスタ - (10)を飲んでいる。それに代わるものはないか。	
60～70	不明	前に胃潰瘍でH2ブロッカ - を処方されていたことがある。最近また胃が痛くなってきたので、よい薬はないか。やはりガスタ - (10)がよいか。	

《医薬品の選択について》

年齢	性別	来局者の相談・質問内容	薬局・薬剤師の対応・応答
40～50	男性	胸やけがする。H2ブロッカ - を購入したい。販売に関してのチェックをして下さい。	
60～70	女性	胸やけがひどく、奥田胃腸薬を飲んだが、効かなかった。ガスタ - (10)はどうだろうか。	よく話を聞いて、消化剤を奨めた。
60～70	女性	胸やけの相談。総合胃腸薬を飲んだが、効果なしとのこと。	症状をよく聞き、ガスタ - (10)を推奨。屯服での服用を指導。
40～50	男性	もともと胃酸の分泌が多いせいか、胸元がカ - ッと熱くなって胸がやける。何を服用すればよいか。H2ブロッカ - がよいか。	逆流性食道炎を起こしているのかもしれないので、医師の診察を受けるよう奨める。今日は、とりあえず胃酸を中和して粘膜を保護する薬を販売する。
40～50	男性	胃酸が逆流するような感じがする。ガスタ - (10)錠を服用すると良くなり、3日間くらいは安定している。医療機関で検査するが、胃カメラも異常なし。ピロリ菌もなく、薬は服用していない。痛むのは、空腹時・食後もある。痛む場所は、特定の所ではない。便通は正常で色も黒くない。	ガスタ - (10)錠6錠を購入する。朝1錠・夜1錠を正しく服用して3日間様子を見るように説明。その間に何か変化(例えば食欲不振・悪心・嘔吐)等があれば、もう一度医院で診察を受けるよう奨める。2週間以上は続けて服用しないよう指導する。

平成15年度「薬と健康の週間」中の任意の1日に薬局で受けた
H2ブロッカ - に関する質問・相談

《副作用について》

年齢	性別	来局者の相談・質問内容	薬局・薬剤師の対応・応答
40～50	男性	[参考:医療用] (足の筋肉痛を訴えて来局。) ガスタ - (医療用)を朝夕服用しているが、どうも足が痛む。	足の痛みに対する薬は販売せず、こむら返りが起きたり、しびれるような感じがあるか等を質問。ガスタ - の服用で胃の状態はよくなり、胸やけは取れたとのこと。胃の状態がよくなったら、服薬を少し止めて、様子を見るように説明。また、その旨を処方医にも伝えるよう話す。4～5日して来局され、医師に相談したら、タガメットを処方され、タガメットでは痛みが起きなかったとのこと。
20～30	男性	H2ブロッカ - の眠気はどの程度のものか。	
20～30	男性	H2ブロッカ - をドラッグストアで買って服用したが、食欲がなくなり不調である。他の胃薬を選んでほしい。	
不明	不明	胃潰瘍でガスタ - (10)を服用したところ、口渇が出た。	
60～70	女性	以前、「ガスタ - は、新聞に死亡例が出た薬であるので、止めた方がよい」と家の人に服用を反対され、今はいっさい服用していない。医療用のタケプロンなら大丈夫か。	
40～50	不明	ガスタ - (10)の副作用や相互作用について知りたい。	循環器系の薬を服用の場合、心電図異常に注意してください。イミダゾ - ル系イトリゾ - ル(抗真菌剤)の効果を減弱します。服用中に、全身倦怠・脱力感・発熱が現れたら、医療機関を受診してくださいと説明。
40～50	女性	ガスタ - の副作用が新聞に載っているのを見て、不安である。配偶者が市販のガスタ - (10)をずっと服用しているが、大丈夫か。	
20～30	男性	十二指腸潰瘍で医者からガスタ - (20)を処方されていたが出されなくなり、以後2年くらい市販薬のガスタ - (10)を飲んだり飲まなかったりを繰り返している。長期間服用して問題ないか。副作用は大丈夫か。	
60～70	男性	新聞で報道されたガスタ - (10)の副作用について心配。どうということなのか。	
60～70	男性	他薬局でガスタ - (10)と思われるものを購入し服用。屯用でなく、朝夕服用していた。2日目よりひどく口が渇くが大丈夫か。	
40～50	男性	病院で胃潰瘍でガスタ - を処方されていたが、現在中断している(半年間)。最近調子が悪いので、ガスタ - (10)を買って飲んだ。以前から気付いていたが乳首が堅くなる。医師にもそのことを告げたことがあるが、重要視されなかった。これは副作用か。	

平成15年度「薬と健康の週間」中の任意の1日に薬局で受けた
H2ブロッカ - に関する質問・相談

《妊婦・授乳婦の服用について》

年齢	性別	薬局者の相談・質問内容	薬局・薬剤師の対応・応答
20～30	女性	ガスタ - (10)を服用したいが、妊婦でもよいか。	
20～30	女性	授乳中の胃痛で、ガスタ - (10)を購入したいがどうか。	ファモチジンは、母乳中に移行しやすいため、避けるよう説明。大正漢方胃腸薬にして、授乳直後に服用するようにして下さいと説明。

《高齢者の服用について》

年齢	性別	薬局者の相談・質問内容	薬局・薬剤師の対応・応答
60～70	女性	ガスタ - (10)を服用したいが、年齢は78才です。大丈夫ですか。	
60～70	男性	胃酸が強く、夜中から朝方に胃の痛みがある。	ガスタ - (10)の説明をするが、できれば医師の診断を受けた方がよい旨指導。結果、医療機関を受診する。

平成15年度「薬と健康の週間」中の任意の1日に薬局で受けた
H2ブロッカ - に関する質問・相談

《相互作用について(併用を含む)》

年齢	性別	来局者の相談・質問内容	薬局・薬剤師の対応・応答
40～50	男性	1時間前に胃薬(健胃消化薬)を服用したが、胃の痛みが取れないため、すぐにガスタ - (10)を服用したいが、どうか。	
40～50	女性	2月に胃の調子が悪くなり受診。ピロリ菌の駆除を受ける。その後、シメチジンとナウゼリンをずっと処方されたが、最近どうも胃がポタッとして腹部膨満感がある。市販のH2ブロッカ - をプラスしてもよいか。	
40～50	男性	H2ブロッカ - を購入。現在服用中の薬(不明)と併用してもよいか。	
60～70	男性	医院でガスタ - (20)、ガストロ - ム顆粒を処方されているが、一緒に飲める胃薬はないか。やはり、H2ブロッカ - がよいか。	消化剤、整腸剤は可。H2ブロッカ - を含む制酸剤、鎮痙剤等は不可であることを説明。
40～50	男性	胃潰瘍のため処方せんにてシメチジン錠をもらっている。もっと早く治るように、市販薬のファモチジン錠を買って飲もうと思うが、どうだろうか。	適当でないことを説明。
60～70	女性	胃がキリキリした時にガスタ - (10)を飲むと調子がよい。血圧の薬と一緒に服用してもよいか。	大丈夫である旨を回答。なお、症状が長期間続く時は、医師に相談することも説明。
～20	女性	胃薬(キャベジン)とH2ブロッカ - を併用してよいか。	
40～50	男性	胃痛・胃もたれで、ガスタ - (10)を服用したい。医療機関より処方された併用薬があるが、一緒に飲んで問題はないか。	
40～50	女性	「胃痛が続く」と相談。症状は2週間前より続いている。ガスタ - (10)を飲んでよいか。	他の胃薬の服用を聞くと、新三共胃腸薬を服用していた。それを中止して、痛みが止まるまでガスタ - (10)を服用するよう指示。また、4日間くらい服用を続けて、痛みが止まらない場合は、医療機関を受診するよう奨めた。
40～50	男性	胃の痛みで来局。以前、胃潰瘍で通院していたが、現在はかかっている。喘息の薬を病院から処方してもらっている。	症状を聞き、H2ブロッカ - は止めて、胃粘膜保護剤を奨める。しばらく服用しても治らない時は、医師に相談することも併せて説明。
80～	男性	医者からガスタ - D(20)を処方されているが、今日は症状(胸やけ)がひどくつらいので、何かいい薬はないか。やはり、H2ブロッカ - がよいのか。	
40～50	男性	医療用のガスタ - を服用していたが、あまり効果がなく、市販薬のサクロンを併用してもよいかと相談あり。	服用しないように指導。
60～70	女性	ガスタ - (10)とクロレラを併用してよいか。	
40～50	男性	ガスタ - (10)を服用したい。昨日抗生物質を飲んだが、今日服用してもいいですか。	
40～50	男性	ガスタ - (10)を服用しているが、これと併用してもよい胃粘膜保護の薬を下さい。	
60～70	男性	ザンタックを処方してもらっている。ガスタ - (10)を飲んでみたいが、どうか。	販売せずに説明。
～20	女性	市販の風邪薬とH2ブロッカ - を併用してよいか。	

《相互作用について(併用を含む)》

年齢	性別	薬局者の相談・質問内容	薬局・薬剤師の対応・応答
40～50	男性	処方せんにて胃潰瘍のため、タガメット錠(成分：シメチジン)を処方されている患者さんよりもっと早く治るように、一般薬のファモチジン錠を買って飲もうと思うが、どうだろうか。	適当でないことを説明。
40～50	女性	病院でガスタ - (20)を処方されているが、服用から次の服用までの間、胃が重く、もたれる感じなので、他の胃薬がほしい。または、追加でガスタ - (10)を飲んだ方がよいか。	他の薬と併用しないこと、ガスタ - (10)を追加で飲まないことを説明。医療機関を受診し、医師に状態を話して、相談するよう奨める。
40～50	男性	病院の方から、H2ブロッカ - を処方されている。(1日2回、朝・寝る前)医師の方から、食後に具合が悪くなったら(胃痛、その他)市販薬を服用してもよいと言われたが、何がいいのだろうか。やはり、H2ブロッカ - がいいのか。	
40～50	女性	本日除菌(ピロリ菌)のために受診し、処方せんを持参。太田胃散かガスタ - (10)を時々服用していたが、今回の薬と一緒に飲んでよいか。	中止するよう説明。

平成15年度「薬と健康の週間」中の任意の1日に薬局で受けた
H2ブロッカ - に関する質問・相談

《用法・用量について》

年齢	性別	来局者の相談・質問内容	薬局・薬剤師の対応・応答
60～70	男性	胃酸分泌抑制剤(ザンタック)を服用中。同種の薬効を持つガスタ - (10)を希望された。	用量がオ - バ - することが危惧されたので、販売をお断りした。
20～30	女性	胃痛のため来局。ガスタ - (10)を希望。用法・用量について質問あり。	長期服用には注意し、回復しない時は、医療機関を受診するよう奨める。
20～30	女性	ガスタ - (10)錠の1日の服用回数について質問。	1日2回までと説明。
40～50	男性	ガスタ - (10)について。効果がなかったら、どの程度まで増量できるか	1日2錠にして、それで症状の改善が見られないようなら、医療機関にかかるよう話す。
20～30	男性	ガスタ - (10)の飲み方を教えてください。	
40～50	男性	ガスタ - (10)の服用方法について教えてください。	
20～30	女性	ガスタ - (10)の用量は1回2錠か。	1回1錠であることを説明。
60～70	男性	ガスタ - (10)服用に関して。1日3回服用しているが。	1日2回にするように指示し、用法用量について説明。効果がなければ、医療機関を受診するよう伝える。
40～50	男性	ガスタ - (10)を継続して服用しているが、効きが悪いので増量してよいか。	今回、ガスタ - (10)を販売せず、医師の診察を受けるよう説明。
40～50	男性	既往症に胃潰瘍あり。また、腹痛があるので鎮痛剤がほしい。ガスタ - (10)を奨めたが、ガスタ - (10)では効果がなかったため、1回2錠服用してよいか。	添付文書通りの服用を守り、効果が得られない時は医療機関を受診するよう奨める。
20～30	女性	食後に胃がもたれる。テレビのCMでよく見るガスタ - (10)を飲めばよいか。何回くらい飲めば治るか。	
60～70	男性	来局者でH2ブロッカ - を続けて服用している方あり。	医療機関にかかるよう説明。

平成15年度「薬と健康の週間」中の任意の1日に薬局で受けた
H2ブロッカ - に関する質問・相談

(効能・効果、有効性について)

年齢	性別	来局者の相談・質問内容	薬局・薬剤師の対応・応答
60～70	男性	1年前前、ガスタ - (10)錠を服用したところ、よく効いた。今回も服用してみたい。	ガスタ - (10)を販売し、今回改善が見られない場合は、医療機関を受診するよう指導。
60～70	女性	H2ブロッカ - と消化剤の違いについて教えて下さい。	
40～50	男性	H2ブロッカ - について。使用期間はどれくらいですか。	
40～50	女性	医師からザンタックを処方され飲んでいるが、今日はその医療機関に行く時間がない。その時は、市販のガスタ - (10)を買っても同じ効果が得られると聞いたが、そのとおりか。	
40～50	男性	胃腸障害にて来局。訴えは消化不良等。ガスタ - (10)を希望される。	薬効が異なる旨を説明し、消化薬を販売。数日後、症状が軽減され、お礼の言葉をかけて頂きました。
40～50	男性	胃痛でガスタ - (10)を服用している方。ガスタ - (10)は胃痛によく効くが、服用を中止するとまた痛む。連用しているが、副作用が気になる。何か安心して連用できる漢方薬はないか。	ガスタ - (10)は、痛みを止めることを目的に、胃液分泌抑制、ペプシン分泌抑制の作用があることを説明。服用を中止するとまた症状が出るような場合は、継続して服用せず、病院での検査を受けるよう奨める。
40～50	男性	一般薬のガスタ - (10)と病院でもらうガスタ - は、どのように違うのか。	
60～70	男性	今、別の胃腸薬を服用しているのが、効き目が弱いので、飲むのを止めたい。胃の痛みとむかつきにガスタ - (10)を服用したいのだが、効果はあるのか。	
40～50	女性	今はガスタ - (10)を服用しているが、あまり症状が改善しないので、違う胃腸薬を服用してもよいか。	医療機関の受診を奨める。
60～70	女性	医療機関でたまにタケブロンを処方してもらっている。普段、考えごとやストレスできりりと胃が痛む。今は、恵命我神散も服用している。もっと効く胃薬はないか。	
40～50	男性	ガスタ - (10)指名買いの来局者。	一度、医療機関を受診してみるように話す。どうして受診が必要なのかとの質問があり、すでに自分は潰瘍等の炎症症状があるのかとの質問もあり。服用により調子がよいのであれば、用法・用量を守り、増やさず服用すること。その上で、症状が改善しないのであれば、一度受診してみるよう説明した。
40～50	男性	ガスタ - (10)について。効能・効果を説明して下さい。	
20～30	男性	ガスタ - (10)の効き目について教えて下さい。	
20～30	男性	ガスタ - (10)を指名してよく買いに来られる方。昼と夜との生活が逆転しているとのこと。	ガスタ - (10)は、長期間使用していると副作用等が起こる可能性もあるので、一時的によくなったら、他の制酸剤に切り替えるように説明。食欲不振も続いているとのことなので、自律神経系の乱れが胃に症状として現れていることや生活の改善等を併せて説明。

《効能・効果、有効性について》

年齢	性別	来局者の相談・質問内容	薬局・薬剤師の対応・応答
40～50	男性	ガスタ - (10)を長期に使用し、胃痛は多少改善された。サクロン、太田胃散、他の胃腸薬も服用しているが、やはり胃の調子が悪い。	元々医療機関の受診を嫌う方だったこともあり、症状に疑問を持ち、近くの医療機関を紹介。強く受診を奨めたところ、胃ガンが発見された。このまま市販薬の服用でごましていたら、命に関わることと思われたと医師よりお話をいただきました。
40～50	男性	ガスタ - (10)をテレビCMで見て飲んだが効かない。ほかに何かないか。胃粘膜保護の薬に切り替えると調子がよくなったとのこと。	今回は、胃粘膜保護の成分を主とする市販薬を販売。
40～50	男性	ガスタ - (10)を服用(薬局で購入)しているが、あまり効かなくなった。なぜか。他に薬はないか。医師に診てもらった方がいいか。	
40～50	男性	ガスタ - (10)を服用したいが、胃酸を抑えるという話を聞いた。食べ物の消化が悪くなるのではないか。本人は心配気。	過剰な胃酸を抑えるものであることを説明し、納得して最少量を購入。
40～50	男性	ガスタ - (10)を求めて来局。以前より胃痛時に服用していて、服用した時は一時よくなるが、症状が繰り返しているとのこと。(胃潰瘍の経験有り)	空腹時、起床時、食後、夜の胃の様子と生活状況、仕事の状況も聞き、胃潰瘍が疑われることを説明。できるだけ早く、すぐにでも受診するように医療機関を紹介。当日、そのまま受診。胃カメラにて胃潰瘍の診断。胃穿孔寸前との所見。医師より、薬局にてどのように説明され受診しに来たかを聞かれ、すぐ受診してよかった、危なかったと言われたとのこと。
40～50	男性	サクロンSは胃の激痛には効かないことがある。ガスタ - (10)ではよいか。	
40～50	女性	手術後の内服薬(おそらく抗生物質と消炎鎮痛剤)で胃の具合が悪くなっているため、ガスタ - (10)を購入希望で来局。2週間近く症状が続く。	販売せずに、消化器科の受診を奨めた。
80～	男性	処方せんではガスタ - (20)が処方されているが、胃がもたれる。よく効くH2ブロッカ - はないか。	
60～70	男性	他店でH2ブロッカ - を購入し、服用しているがまだ調子が悪いので、他によいものはないか。	いわゆる胃酸不足になっていて、消化力が減退していたことが考えられるため、H2ブロッカ - の服用を一旦中止してみてもと説明。
40～50	男性	病院よりH2ブロッカ - を処方された。市販のガスタ - (10)と薬効等は違うのか。	
40～50	男性	ボルタレンを服用して胃に潰瘍ができた。オメプラゾン服用してすぐ治ったが、その後、複数の病院でガスタ - 又はザンタックをもらって服用している。あまり効果はない。今、手持ちの薬を切らしているため、市販薬でしのぎたい。ガスタ - (10)でよいか。	
60～70	男性	胸やけに効く薬を求められる。ガスタ - (10)の薬効を尋ねられる。	食べ過ぎのようで、新三共胃腸薬を奨め、購入される。

平成15年度「薬と健康の週間」中の任意の1日に薬局で受けた
H2ブロッカ - に関する質問・相談

《使用上の注意について》

年齢	性別	来局者の相談・質問内容	薬局・薬剤師の対応・応答
60～70	女性	H2ブロッカ - の使用上の注意を教えてください。	
40～50	男性	胃潰瘍で市販のガスタ - (10)を飲んでいるが、とても調子が悪い。このまま続けて飲んでよいか。	
40～50	男性	ガスタ - (10)の長期服用の方。病院に行く時間がないということで相談あり。	長期間市販薬のガスタ - (10)を使用せず、医療機関を受診するよう説明。
20～30	女性	ガスタ - (10)をいつも飲んでいる。ずっと続けてよいか。	
40～50	男性	ガスタ - (10)を継続して服用しているが、あまり症状が改善しない。	医師の診察を受けるよう説明し、販売はしなかった。
60～70	男性	ガスタ - (10)を継続して服用しているが、いつまで続けてよいか。	今回、ガスタ - (10)を販売せず、医師の診察を受けるよう指示。
40～50	男性	ガスタ - (10)を指名買いの来局者。	話を聞くと、長期に服用しているとのこと。漫然とこの薬を服用するのはよくないので、症状が改善しないなら、医療機関を受診し検査を受けるように指導。
40～50	男性	空腹時に胃が痛むので、ガスタ - (10)を服用したい。服用するに当たって注意することを教えてください。	
60～70	女性	購入の際、相談はなかったが、当薬局でガスタ - (10)をよく購入されている。	購入が何回にもわたるので、医療機関への受診を奨めた。
20～30	男性	時々ガスタ - (10)を服用しているが、そのまま続けてもよいか。	屯用で効果がよいのなら問題ないが、胃痛が続く場合は、医療機関で診てもらうように指導。

最近のスイッチOTC薬^{*1}等の承認について

承認時期	主たる成分名	薬効分類
～昭和57年	メトカルバモール	その他の精神神経用薬
昭和58年	ソイステロール（大豆油不けん化物） ピコスルファートナトリウム	高コレステロール低下薬 便秘薬
昭和59年	セミアルカリプロティナーゼ	かぜ薬
昭和60年	イブプロフェン リン酸ジメモルファン インドメタシン（外用） エキサラミド（外用）	解熱鎮痛薬 鎮咳去痰薬、他 外用鎮痛・消炎薬 水虫・たむし用薬
昭和61年	ポリエンホスファチジルコリン	高コレステロール低下薬
昭和62年	臭化ブチルスコポラミン 臭化チメピジウム 塩酸プロムヘキシシ 塩酸セトラキサート ポリエチレンスルホン酸ナトリウム（外用） シクロピロクスオラミン（外用） 硝酸ミコナゾール（外用）	胃腸鎮痛鎮痙剤 胃腸鎮痛鎮痙剤 鎮咳去痰薬 胃腸薬 外用鎮痛・消炎薬 水虫・たむし用薬 水虫・たむし用薬
昭和63年	カルボシステイン ゲファルナート 塩酸イソチペンジル（外用） 硝酸エコナゾール（外用）	鎮咳去痰薬 胃腸薬 局所用歯痛薬 水虫・たむし用薬
平成元年	ヘプロニカート 塩酸ロペラミド	ビタミン主薬製剤血行障害改善薬 止しゃ薬
平成2年	ユビデカレノン 酢酸ビソキサチン 酪酸ヒドロコルチゾン（外用） イブプロフェンピコノール（外用） メキタジン	強心薬 便秘薬 外用湿疹・皮膚炎用薬 にきび治療薬 内服アレルギー用薬、他
平成3年	塩酸エブラジノン ウフェナマート（外用） トルシクラート（外用）	鎮咳去痰薬 外用湿疹・皮膚炎用薬 水虫・たむし用薬

	チオコナゾール (外用)	水虫・たむし用薬
平成4年	吉草酸酢酸プレドニゾロン (外用) メコバラミン L-アスパラギン酸カルシウム	外用湿疹・皮膚炎用薬 ビタミン主薬製剤 カルシウム主薬製剤
平成5年	硝酸ビホナゾール (外用) 硝酸オキシコナゾール (外用) 硝酸スルコナゾール (外用)	水虫・たむし用薬 水虫・たむし用薬 水虫・たむし用薬
平成6年	ケトプロフェン (外用) ピロキシカム (外用)	外用鎮痛・消炎薬 外用鎮痛・消炎薬
平成7年	オキセサゼイン 塩酸ピレンゼピン マレイン酸トリメプチン フェルビナク (外用) ヨウ化イソプロパミド	胃腸薬 胃腸薬 胃腸薬 外用鎮痛・消炎薬 胃腸薬
平成9年	クロモグリク酸ナトリウム (点眼用) クロモグリク酸ナトリウム (点鼻用) シメチジン ファモチジン 塩酸ラニチジン	目薬 鼻炎用点鼻薬 胃腸薬 胃腸薬 胃腸薬
平成10年	ソファルコン	胃腸薬
平成11年	ミノキシジル (外用) ※2	発毛・養毛薬
平成12年	デプレノン	胃腸薬
平成13年	ニコチン (ガム)	禁煙補助剤
平成14年	プラノプロフェン 塩酸テルビナフィン (外用) 塩酸アモロルフィン (外用) 塩酸ブテナフィン (外用) 塩酸ネチコナゾール (外用)	目薬 水虫・たむし用薬 水虫・たむし用薬 水虫・たむし用薬 水虫・たむし用薬
平成15年	塩酸ジフェンヒドラミン 塩酸 (硫酸) プソイドエフェドリン	催眠鎮静剤 鼻炎用内服薬

※1 医療用医薬品からの転用成分を含有する新一般用医薬品

※2 新有効成分を含有する一般用医薬品